

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	カンファレンスの際、介護職員の関与が消極的である。介護計画が実践される為には、計画作成の原案の段階から介護職員全員の積極的な関わりが必要である。	介護職員がケアマネジメントのプロセスについて理解し、ケアマネジメントが有効に機能することにより、利用者に対するケアの質が向上する。	①介護職員のケアマネジメントに対する理解を深める為、少しずつ勉強会を行なっていく。 ②担当制にして、アセスメントの必要性を理解し、定期アセスメントを行ないながら、アセスメントやモニタリングを実施することに慣れていく。 ③カンファレンスの場で担当者が積極的に関わっていく。	12ヶ月
2	4	今年度から、運営推進会議を偶数月とし、年に6回開催することを計画しており、現在運営推進会議を活かした地域交流も少しずつ充実してきている。しかし、日常的な地域交流については行なわれていない。	利用者の生活の中で、地域の住民として地域と少しでも関わりが持てるような、地域の方達との日常的な交流を行なうことが出来る。	①運営推進会議を計画通り年6回開催する。 ②日常的な地域交流について色々な意見を伺いながら出来ることを試みていく。 ③運営推進会議への職員の理解、関わりを深めていく。	12ヶ月
3	37	職員の認知症に対する理解やケアの力量に差があり、利用者の思いや求めていることを受けとめる力が同じではない。積極的に研修会などに出席してレベルUPを図る必要があり、また全ての職員が常に向上心を持って努力することが大事。	利用者の希望の表出や自己決定に対する職員の支援が同じように充実し、利用者がその人らしく生き活きた生活が送れる。	①施設内外の研修会に積極的に出席する。 ②各職員が自分をふりかえり、必要なことが習得できるよう自己研鑽に努める。 ③職員同士がコミュニケーションをよくとり合い、チームケアを意識して支援を行なう。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。